

### (1) 全世界：インフルエンザと COVID-19 の流行状況

北半球でのインフルエンザの流行は、ほぼ収束しています。一方、南半球では南米で A 型の患者数が増えています (WHO influenza update 24-4-17)。COVID-19 については、欧米諸国や日本での冬の流行は収束しましたが (米国 CDC、ECDC、厚生労働省 24-4-19)、中南米や東欧で患者数がやや増えています (WHO influenza update 24-4-17)。

### (2) アジア：デング熱の流行状況

マレーシア、シンガポール、インドネシアでは、昨年同期を上回る数のデング熱患者が報告されており、マレーシアでは患者数が 4 万人以上、インドネシアで 3 万人以上にのぼっています (WHO 西太平洋 24-4-11、ProMED 24-4-15)。ベトナムでも 1 万人以上の患者が報告されていますが、昨年同期よりも患者数はやや少なくなっています。東南アジアはこれから本格的なデング熱の流行シーズンに入るため、十分な予防対策が必要です。

### (3) アジア：ベトナムで鳥インフルエンザ患者が発生

ベトナム中部のカインホアで、21 歳男性が鳥インフルエンザ H5N1 型に感染し、死亡しました (WHO 24-4-2)。ベトナムでは 2003 年以来、100 人以上の H5N1 型の患者が報告されており、半数が死亡しています (ProMED 24-3-25)。ベトナム南部のティエンジャンでは、37 歳男性が鳥インフルエンザ H9N2 型に感染し、重症になっています (WHO 24-4-19)。H9N2 型は中国などで 100 人近くの患者が確認されていますが、ベトナムでは本例が最初の患者になります。いずれの患者も、家禽などに接触して感染したと推測されています。

### (4) オーストラリア：ロズリバー熱の流行

オーストラリアでは北東部のクィーンズランド州などで、今年 1 月からロズリバー熱の患者が 1500 人以上発生しました (ProMED 24-3-25)。ロズリバー熱は蚊に媒介される感染症で、発熱や関節痛を起こします。クィーンズランド州にはブリスベンやケアンズなど日本の旅行者に人気の観光地があり、滞在中は蚊に刺されない注意が必要です。

### (5) ヨーロッパ：ポーランドなどでダニ媒介脳炎患者が増加

ポーランドでは昨年、ダニ媒介脳炎患者が 659 人発生しました (ProMED 24-3-29)。過去 4 年に比べて、年間患者数が 2 倍以上に増えています。スイスでも今年 1 月～3 月に、27 人のダニ脳炎患者が報告されました。これは昨年の 2 倍以上の数です (Fit For Travel 24-4-19)。気候の温暖化などで、媒介するマダニの数が増えたことが原因と考えられています。なお、ダニ媒介脳炎のワクチンが日本でも今年 3 月に承認されました。実際に流通するには、もう少し時間がかかる見込みです。

### (6) アフリカ：コンゴ民主共和国でのエムボックスの流行 (続報)

中央アフリカのコンゴ民主共和国で、エムボックス (サル痘) の患者数が増加しています。今年 1 月から 3 月末までに患者数は 4488 人 (疑いを含む)、死亡者数は 279 人になっています (ECDC 24-4-5)。この患者数は昨年同期の 3 倍で、患者の 7 割は小児とのことです。今回、コンゴ民主共和国で増加しているエムボックスは、現在、世界的に流行しているウイルス (Clade 2 b) とは別系統のウイルス (Clade 1) で、致死率がより高い種類です。昨年後半から同国の東部で流行が発生し、全土に拡大しました。コンゴ民主共和国以外での患者は確認されていませんが、東部国境を接するルワンダやブルンジへの拡大が懸念されています。

### (7) 南北アメリカ：米国で鳥インフルエンザ H5N1 型の患者が発生

米国・テキサス州にあるウシ牧場の労働者が、3 月下旬に結膜炎を発症しました。その後の検査の結果、原因が鳥インフルエンザ H5N1 型であることが判明しました (WHO 24-4-9)。患者には呼吸器症状はなく、結膜炎は回復しています。米国では今年 2 月ごろから、テキサス州などのウシの間で H5N1 型ウイルスの流行が拡大しており、こうしたウシに接して今回の患者は感染したと推定されています。

### ・日本国内での輸入感染症の発生状況 (2024年3月4日～4月7日)

最近 1 ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立感染症研究所の感染症発生動向調査を参考に作成しました。

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr-dl/2024.html>

(1) 経口感染症：輸入例としては細菌性赤痢 3 人、腸管出血性大腸菌感染症 11 人、腸チフス 4 人、赤痢アメーバ症 4 人、ジアルジア 1 人、A 型肝炎 1 人が発生しています。腸管出血性大腸菌感染症は前月 (5 人) より 2 倍に増加しており、韓国での感染が 5 人と多くなっています。

(2) 昆虫が媒介する感染症：デング熱が 18 人発生し、前月 (7 人) より大幅に増加しました。感染国はインドネシア (11 人) が多くなっています。マラリアの輸入例は 3 人で、ウガンダ、ナイジェリア、インドネシアでの感染でした。

**(3) その他：**麻疹の輸入例が6人報告されており、感染国はU A E 3人、インド2人、タイ1人でした。エムポックスの輸入例が1人で、ナイジェリアでの感染でした。